

帯谷 博明 (OBITANI Hiroaki)

1973年、奈良県生まれ。2003年、東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。立正大学文学部専任講師などを経て、2007年4月より奈良女子大学文学部准教授。専攻は環境社会学。

主な研究テーマ：

1. 地域における水と人間社会との「かかわり」の変遷
2. 環境運動の展開過程と政策・制度との相互作用
3. 大型開発計画の社会的影響
4. 環境管理・環境再生に関する合意形成と協働の方策

主要業績

論文

- ・2006, 「地域環境管理の計画決定過程と市民参加 大分県大野川の河川整備計画から」『奈良女子大学社会学論集』13, 77-92.
- ・2006, “Strategies and Framing of a New Anti-dam Movement: A Case Study in Kesenuma, Japan,” Annual Report on Research and Education: Faculty of Letters, Nara Women’s University, vol. 2, pp. 111-122.
- ・2004, 「日本における環境運動の展開とその諸相 河川開発問題からのアプローチ」『立正大学文学部論叢』119: 1-24.
- ・2002, 「ダム建設計画をめぐる対立の構図とその変容 運動・ネットワーク形成と受益・受苦に注目して」『社会学評論』53(2): 52-68.
- ・2002, 「大型公共事業計画中止後の『地域再生』の可能性 新たな『地域づくり』の展開とその二重の機能」『社会学年報』31: 119-137.
- ・2002, 「『地域づくり』の生成過程における『地域環境』の構築 『内発的発展論』の検討を踏まえて」『社会学研究』71: 191-213.
- ・2000, 「漁業者による植林運動の展開と性格変容 流域保全運動から環境・資源創造運動へ」『環境社会学研究』6: 148-162.

単著

- ・2004, 『ダム建設をめぐる環境運動と地域再生 対立と協働のダイナミズム』昭和堂.

共著

- ・2004, 早坂裕子・広井良典編著『みらいを拓く社会学 看護・福祉を学ぶ人のために』ミネルヴァ書房. (「第12章 環境問題と現代社会 廃棄物問題から眺める」を担当)

その他

- ・2006, 書評 「伊藤守・渡辺登・松井克浩・杉原名穂子著『デモクラシー・リフレクション 巻町住民投票の社会学』(リベルタ出版)」『社会学研究』79, 267-272.
- ・2005, 書評 「G. L. ケリング / C. M. コールズ著(小宮信夫監訳)『割れ窓理論による犯罪防止 コミュニティの安全をどう確保するか』(文化書房博文社)」『立正大学社会学論叢』4: 54-55.
- ・2004, 「森は海の恋人」東北都市学会編『東北都市事典』, pp.387-388.
- ・2003, 書評 「鳥越皓之企画編集『シリーズ環境社会学(全6巻)』(新曜社)」『週刊読書人』2003年11月21日号.
- ・2001, 「中山間地域における『持続可能な農村コミュニティ』再生プランの社会学的研究」『持続可能な社会と地球環境のための研究助成 1999年度研究成果論文集』財団法人消費

生活研究所，pp . 49-72. (長谷川公一ほかとの共著)

リンク

- ・ [奈良女子大学文学部](#)
- ・ [奈良女子大学文学部 国際社会文化学科 地域環境学コース](#)
- ・ [READ](#)

研究カテゴリ